国際エネルギー情勢を見る目（803）　2026 年 7 月 22 日

EI 統計に見る、2025 年の国際エネルギー情勢（2）：エネルギー生産・輸出動向

一般財団法人　日本エネルギー経済研究所
顧問
小山　堅

前回の「国際エネルギー情勢を見る目（802 号）」に続き、今回の小論では、EI Statistical Review of World Energy 2026 に基づいて、2025 年の国際エネルギー市場の注目すべきポイントをまとめる。今回は、国際エネルギー市場の需給バランスを映す鏡であるエネルギー価格動向を整理し、石油、天然ガス・LNG、石炭について生産及び輸出動向を整理する。

国際エネルギー市場を見る上で常に注目の的となる原油価格だが、2025 年のブレント原油のスポット価格平均は 69.10 ドル／バレルであった。ウクライナ危機が発生した 2022 年の同平均値は 101.32 ドル、その後 2023 年 82.64 ドル、2024 年 80.76 ドルと、80 ドルを超える高値水準が続いたが、2025 年は石油需給の緩和で 70 ドルを割り込んだ。ブレントの年平均値が 70 ドル以下となったのは、2020 年以来、5 年ぶりである。

天然ガス価格については、欧州市場を代表する TTF 価格が、2022 年の 100 万 BTU 当たり（以下同様）37.09 ドルという歴史的な超高価格から 2023 年、2024 年の 10 ドル台前半まで大きく低下したが、2025 年は前年比 1 ドル上昇し、11.89 ドルとなった。アジアのスポット LNG 価格指標、JKM も、2025 年は前年比 0.25 ドルの微増で、12.16 ドルとなった。10 ドル台前半は歴史的に見て相対的には高価格水準であるともいえる。なお、米国のガス価格指標、Henry Hub の 2025 年平均価格は前年比 1.28 ドル高の 3.53 ドルとなったが、米国のガス価格が他の主要市場と比較して圧倒的に低い水準であり続けている。石炭価格は石油同様に前年比で大きく低下した。北西欧州価格は 2024 年の 112.08 ドル／トンから 2025 年には 97.96 ドルへと 15 ドル近く低下した。しかし 100 ドル近辺の石炭価格は歴史的に見て高い水準であるといえる。こうした価格状況とも関係を持つ供給動向を、石油、天然ガス・LNG、石炭について順次見ていくこととする。

石油については、2025 年の世界の生産量は前年比 3.5%増の 1 億 59 万 B/D となった。同年の世界の石油需要の伸びは 1.3%であり、需要の伸びを上回る堅調な供給拡大となっている。内訳を見ると、同年の非 OPEC 生産は前年比 3.0%増の 6,621 万 B/D となったのに対し、需給調整を実施する OPEC の生産は前年比 4.7%増の 3,438 万 B/D へと大きく拡大した。OPEC の旺盛な増産が 2025 年の原油価格低下の背景要因となっている。他方、非 OPEC の中で OPEC プラスグループに参加するロシアの生産は、前年比 0.2%減の 1,074 万 B/D と、2022 年から 3 年連続の低下となった。こうした中、非 OPEC の、ひいては世界の石油生産増加の牽引役となったのが米国である。2025 年、世界最大の産油国である米国の石油生産は、前年比 3.9%増の 2,107 万 B/D となった。米国の同年の増産量（前年比）は 79 万 B/D であり、世界最大の増産量を記録した。また OPEC 最大の産油国、サウジアラビアの生産量も、同年を通じて顕在化した増産志向の下で拡大し、前年比 5.1%（55 万 B/D）増の 1,141 万 B/D となった。こうして、世界の石油生産上位 3 カ国、米国（シェア 21%）、サウジアラビア（同 11%）、ロシア（同 11%）は、米国・サウジアラビアの堅調な増産に対して、ロシアは減産と対照的な生産動向を示した。

また、2025 年の世界の石油輸出は前年比 0.3%増の 6,960 万 B/D となった。主要国別には、最大の輸出国である米国は前年比 1.5%増の 979 万 B/D、第 2 位の輸出国、サウジアラビアが同 0.1%の微増で 767 万 B/D であったのに対し、第 3 位のロシアは 5.5%減の 715 万 B/D と、ロシアの輸出低下が顕著となった。ロシアの石油輸出は 2022 年の 810 万 B/D

から 100 万 B/D 近くの低下となっている。地域別に見ると中東の 2025 年の石油輸出は前年比 2.5%増の 2,492 万 B/D と世界の石油輸出の 36%を占め最大の輸出地域の地位を保っている。ちなみに、米国の 2025 年の石油輸出は前出の通り 979 万 B/D と世界最大であったが、同時に 793 万 B/D の石油輸入も行っている。その点、米国の純輸出量は約 190 万 B/D であり、サウジアラビアやロシアのような巨大な純輸出国とは異なっている。

2025 年の世界のガス生産は、前年比 1.6%増の 4,197BCM（10 億立米）となった。同年の世界のガス需要は前年比 1.6%増と堅調に伸びており、ガス生産も需要に見合う増勢を示した。世界最大のガス生産国である米国の 2025 年生産量は前年比 4.3%増の力強い増加で 1,074BCM となった。米国のガス生産は、2005 年の 489BCM をボトムとして、2020 年の例外的減産を除き 20 年間増産が継続しており、2025 年には 2005 年の 2.2 倍にまで拡大している。他方、世界 2 位のガス生産国、ロシアの 2025 年のガス生産は前年比 3.0%減で 609BCM となった。ウクライナ危機発生前の 2021 年の生産水準（702BCM）から 100BCM 近い減産となっている。地域別にみると、北米（前年比 4.0%増）、中東（同 2.8%増）、アジア太平洋（同 1.6%増）などが生産増となる一方、旧ソ連（同 1.7%減）、欧州（同 2.1%減）などが生産減となり、地域別ガス生産動向は増減産が併存するまだら模様となった。

この状況下、世界のガス輸出にも興味深い変化が見られた。2025 年の地域間パイプラインガス貿易は前年比 3.6%減で 404BCM となった。一方、LNG 貿易は 6.5%の大幅増で 495BCM となった。2025 年の地域間ガス貿易全体（899BCM）に占める LNG のシェアは 55%と、パイプライン貿易のシェア 45%を大きく上回っている。かつてパイプラインガスがガス貿易の主体で、20 年前の 2005 年にはそのシェアは 74%であったが、LNG 貿易の急速な拡大で 2022 年に逆転が発生、基本的には今後もその趨勢が続くものと考えられている。

2025 年のガス貿易の変化の中で最も注目すべき動きの米国 LNG 輸出の大幅拡大である。2025 年の米国からの LNG 輸出は前年比 27.1%の劇的な拡大で 147BCM となった。前年からの増加分は 31BCM に達し、同年の世界のガス貿易の増加 13BCM はおろか、世界の LNG 貿易の増加 29BCM をも上回り、まさに米国 LNG の増加が世界の LNG 貿易増加の牽引車となった。米国 LNG の輸出先は、欧州が最大で 100BCM、次いでアジア 24BCM、中東 14BCM となっている。後述するロシアからの欧州向けパイプラインガス輸出の低下を補う形で米国 LNG が欧州に向かう形となった。

ウクライナ危機が発生する前の 2021 年時点では、世界の地域間ガス貿易全体の 21%を占めていたロシアのパイプライン輸出は、2021 年の 201BCM から 2022 年には 125BCM へと大幅に低下した。この大幅減少の大半が欧州向け輸出の急減（同期間で 168BCM から 86BCM へ低下）によるものであ。ロシアのパイプラインガス輸出はその後も低迷し、2025 年は前年比 8.5%減の 102BCM となった。また同年の欧州向けパイプライン輸出は 36BCM へと大幅に減少、2021 年対比 79%の大幅低下となっている。この間、中国向けのパイプラインガス輸出は 2021 年 8BCM から 2025 年 36BCM へと拡大したが、全体としてのロシアのパイプラインガス輸出の低下に歯止めをかけるには至っていない。2025 年はロシアにとって、ガス輸出の面でも、石油輸出の面でも、数量と価格の双方で厳しい年となった。

2025 年の世界の石炭生産は、前年比 0.2%増の 90.5 億トンとなった。安定供給と手頃なエネルギー価格の重要性が世界で再認識される中で、石炭消費が緩やかに拡大し、それに見合う形で石炭生産も拡大した。世界の石炭生産の 52%シェアを占める中国で前年比 1.2%の増産、同 12%シェアを占めるインドで同 0.2%の増産となったことに加え、米国の石炭生産が 4.3%と堅調な増産を示したことが注目される。世界の石炭輸出は 2025 年に前年比 3.1%の減少となった。世界 1 位の石炭輸出国インドネシアの輸出が前年比 7.4%減、2 位の輸出国オーストラリアが同 0.5%減となったことが全体のトレンドを左右している。

以上

お問い合わせ：report@tky.ieej.or.jp